

【工芸部門】 市長賞 佐藤 雅之 さん

「 ^{たが}互いの^{おも}想い 」

絵画は、色や線を使って平面に表現するのに対して、彫刻は、形や量や空間を立体に表現する。

平面の絵画がプラスしていく世界だとしたら、彫刻は、いかにマイナスしていくかというもので、対極にある。また、何かの具体的な形を表しているものを具象彫刻とするなら、テーマに沿った形や質感を自分の感性で表したものが抽象彫刻と言えるだろう。本作品は後者である。

材質は楠。楠は柔らかいが、乾燥させると、ゆがみやひずみが生じる。また、木目が複雑に入り組み、逆目を起こしやすい。そんな材と格闘することも、制作の醍醐味である。

作品は、双方に形をずらしながら、そこに生まれる少しの空間を意識した。互いが、近づけるようで、近づき難い「間」の表現である。